

算数科学習指導案

指導者 木村 佳美

1 日時	平成30年 10月 12日(金) 第5校時
2 場所	尾道市立御調中央小学校 自閉症・情緒障害特別支援学級(ひまわり教室)
3 学年	第3学年 男子2名(A児・B児) 第4学年 男子2名(C児・D児) 第6学年 男子1名(E児)
4 単元名	第3学年 円と球 第4学年 式と計算 第6学年 比とその応用

単元観

本単元は、学習指導要領第3学年の内容 B(1)「図形に関わる数学的活動を通して、知識及び技能をまた、思考力、判断力、表現力等を身に付けること。」及び第4学年A(6)「数量の関係を表す式に数学的活動を通して、知識及び技能をまた、思考力、判断力、表現力等を身に付けること。」の内容を受けて設定されている。及び第6学年(1)「伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、知識及び技能をまた、思考力、判断力、表現力等を身に付けること。」の内容を受けて設定している。

本単元は、自立活動の「パーティーをしよう」と横断的に実施する。第3学年では、パーティーの飾りとして正方形の中にぴったり入る円を、どのように作図したらよいか理解していく。第4学年児童には、パーティーの買い出しをするために、()を用いて計算する方法を考えていく。第6学年では、パーティーでジュースの原液を薄める活動を通して、比についての理解を深めていく。このような活動を通して、自分たちでパーティーをするという目的意識をもたせ、学習意欲を喚起し、問題解決に必要な知識・技能を身に付けていく。

児童観

児童	児童の実態	教科に関する実態
第3学年 A児	<ul style="list-style-type: none"> 指示を聞いて理解することが難しく、言葉での指示が入りづらい。 集中力が切れやすく、疲れてしまうとぼうつとしてしまうことが多い。 字を書くこと、板書を写すことに時間がかかる。 自分の意見を変えたり、譲ったりすることが難しい。 日記など、形式の決まっていない文章を書くことに抵抗感があり、長く書けない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりに考えて問題に取り組むことはできるが、自分の考えたことを相手にわかるように説明することが苦手である。 定規を使って直線を引く際には、定規をスライドさせ直線を引くため、まっすぐな線を引くことができてないことがある。 正方形や長方形を四角形の仲間として認識しておらず、直角についても正答できず、見た目で見極めているとみられる。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 友達に勝ちたいという意識が強く、負ける 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の理解や文章問題や、複雑な計

B児	<p>ことを嫌う。できない問題では切り替えができず、涙ぐむことがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学習に対して粘り強く取り組むことができる。 • 友達への注意も言葉がきつくなりがちである。 • 自分の意見を変えたり、譲ったりすることが難しい。 • 休憩時間は、交流学級の友達や異学年と遊ぶことができる。 	<p>算に対しても、それぞれの数量が何の数であるかを理解し、題意に沿う答えを求めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 説明に関しては、簡単なものであればできるが、伝わりにくいことがある。 • 生活場面で直線を引く際には、正しい使い方で定規を使って直線を引くことができる。 • 正方形や長方形を四角形の仲間として認識することができた。直角については正答を選ぶことができなかった。
第4学年 C児	<ul style="list-style-type: none"> • 自分ができないと感じたことやわからない問題では、解くのを諦めてしまい、固まってしまう。 • 決められた問題を黙々と解くことができる。 • 困ったことや分からないことなど、表現することが難しい。 • 友達とのトラブルの際には、思ったことが言えないことが原因で、手を出してしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 計算のしかたを図や言葉を使って説明することが難しい。 • 決められた課題に取り組むことができるが、新しい課題に対して自ら解決方法を見付けることは苦手である。 • 結合法則や（ ）の使い方について理解することができているものの、結合法則や（ ）を用いて工夫して計算する問題では、どのように考えてよいのかわからず、問題を解くことができなかった。
第4学年 D児	<ul style="list-style-type: none"> • 興奮するとおしゃべりが止まらない。 • 蓄膿が原因で疲れやすくなっており、集中力も切れやすい。 • 聞いたことを覚えて行動することが難しい。 • 考え出したら自分の思考からなかなか抜けられず、友達の意見を受け入れることが難しい。 • 学習意欲にむらがあるが、発想力は高く、考えたことを自分なりに解釈した言葉で説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 文章問題については、問題文の中の大事な所を落としてしまうこともあり、読みとれていないことがある。 • 考え方を問われる問題では、自分なりに考えてノートにまとめられることができるが、分かりやすく説明することが難しい。 • 結合法則については理解しているものの、（ ）を使った計算問題では、（ ）内の計算を先にするのではなく、左から順に計算してしまっていたことから、（ ）の使い方については理解することができていない。
第6学年 E児	<ul style="list-style-type: none"> • 学習の定着が難しく、既習内容についても忘れてしまうことが多い。 • できない問題、分からない問題だと思考が停止してしまうことがある。 • 自分の考えを表現することに苦手意識があり、 	<ul style="list-style-type: none"> • 文章問題は、何が問われているのかわからず、答えることが難しい。 • 自分の力で解きたいという気持ちが強いあまり、他の考え方を受け入れることができにくい。

	<p>計算の途中式を書かず、自分の頭で考えることが多く、その考えを説明したり、ノートに書いたりすることが難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 決められた問題に対して、黙々と取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる2つの数量の文章問題では、自分の力で表に表すことはできないが、表を提示し、それぞれ当てはまる数値と一緒に入れる作業を通して、一方が2倍、3倍…になれば、他方も2倍、3倍…になるという関係を見付けだすことはできる。
--	---	--

指導観

本単元では、「知識・技能を活用する」力と「やり抜く」力を育成していく。また、本時では特に、「やり抜く」力を育成する。そのため、指導に当たっては、次の工夫をしていく。

〈第3学年 A児〉

1 児童の教科の実態を受けての指導の工夫	
<p style="text-align: center;">単元における工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心から一定距離の位置に点を打つなどの作業の時間を確保し、定義を実感をもって学ぶことができるようにする。 円の性質を整理するなど、具体物を操作し、どこが何を示しているのか円の「中心」「直径」「半径」の関係の理解を深める。 円の「中心」「直径」「半径」の関係やコンパスを使った円の描き方など掲示することで、いつでも振り返られるようにする。 	<p style="text-align: center;">本時の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 方眼の入った正方形の用紙を用いたり、正方形の用紙を半分に折ったりする活動を通して、円の中心が見付けられるようにする。 正方形の半分の長さから直線を結んだものをヒントカードとして用意しておき、必要に応じて活用する。
2 児童の実態を受けての目標と手立て	
<p style="text-align: center;">目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 円の半径の長さや正方形の辺の半分の長さが等しいことに気付くことができる。 	<p style="text-align: center;">手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 正方形の辺の長さや円の直径が等しいことや正方形の辺の半分の長さや円の半径の長さが同じ長さであることを紙テープを使って視覚的におさえる。

〈第3学年 B児〉

1 児童の教科の実態を受けての指導の工夫	
<p style="text-align: center;">単元における工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 円や球の具体物操作や、「中心」「直径」「半径」等の算数用語を使って説明させる活動を通して、理解を深める。 円の「中心」「直径」「半径」の関係やコンパスを使った円の描き方など掲示することで、いつでも振り返られるようにする。 	<p style="text-align: center;">本時の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 方眼の入った正方形の用紙を用いて、円の中心や円の描き方を見いだせるようにする。 ペア活動を通して、相手にわかりやすいように説明する。
2 児童の実態を受けての目標と手立て	

目標	手立て
<ul style="list-style-type: none"> 円の中心を見付け正方形にぴったり入る円を描く方法を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 円の中心を見付けることができるように、正方形の半分から直線を結んだヒントカードを必要に応じて用い中心を見付けやすいようにする。 正方形の一辺の半分の長さで円の半径の長さが同じ長さであることが視覚的に確認できるようにする。

〈第4学年 C児〉

1 児童の教科の実態を受けての指導の工夫	
単元における工夫	本時の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活から問題場面想起させたり、問題場면을言葉の式で表したりする活動を行うことで、どのように式に表したか考えやすいようにする。 計算する順番を式に書き込むことで、計算の順序を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> パーティーの買い出しをするために、実際に近所のスーパーに売られているお菓子から好きなお菓子を選ばすことで、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。 立式をした際に、計算する順をナンバリングしたり、立式した式を言葉で説明させたりする活動を通して、整理させる。
2 児童の実態を受けての目標と手立て	
目標	手立て
<ul style="list-style-type: none"> () を使って一つの式に表し、話型の穴埋めに言葉を入れて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文からわかることを言葉にした用語カードを用いて整理させ、2つの式から1つの式にまとめるためにはどうしたらいいのか考えさせる。 「式は、_____になります。まず、()の中を先に計算して、<u>代金の合計</u>を求めます。<u>□円 + □円 = □円</u>です。次に500円から()を引きます。<u>500円 - □円 = □円</u>です。」という話型を用意し、ペアで説明し合う時間をとる。

〈第4学年 D児〉

1 児童の教科の実態を受けての指導の工夫	
単元における工夫	本時の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 具体的な場면을式に表したり、式から場面や一般的な関係を読み取ったりすることを通して、理解を深める。 計算する順番を式に書き込むことで、計算の順序を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動のパーティーの買い出しの会計係として買い物をすることを想起し、学習意欲が高められるようにする。 立式をした際に、立式した式を言葉で説明させたりする活動を通して、整理させる。
2 児童の実態を受けての目標と手立て	
目標	手立て
<ul style="list-style-type: none"> () や言葉で計算のしかたを説明することができる。 () を使って一つの式に表し、自分なりの言葉で説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて話型を用いることで、相手にとってわかりやすい説明をすることができるようにする。

〈第6学年 E児〉

1 児童の教科の実態を受けての指導の工夫	
単元における工夫	本時の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を理解するために、児童が考察する際には、自分の考えを図や式に表す活動を通して、理解を深められるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の時間を想起し、身近な生活の場면을学習に取り入れ、問題場面のイメージをもちやすいようにする。 1人分のジュースの濃さの比や比の値、2人分のジュースの濃さの比や比の値を考えた後に、2つの比の関係について考える、またスモールステップで課題に取り組む。
2 児童の実態を受けての目標と手立て	
目標	手立て
<ul style="list-style-type: none"> 2つの比の値が等しいとき、2つの比の値が等しくなることに気が付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 比や比の値について書いてあるものを掲示し、いつでも振り返られるようにする。 比の関係について考えた後に、実際に1人分のジュースを薄める活動を通して、2通りのジュースの原液を薄める活動を通して、濃さが変わっているのか確かめられるようにする。

5 第3学年 単元の目標

○円について、中心、半径、直径を知ること。また、円に関連して、球についても直径などを知る。

【B(1)ウ】

○図形を構成する要素に着目し、構成の仕方をもとに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉える。

【B(1)イ(ア)】

第4学年 単元の目標

○数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、数量の関係を表す式について理解するとともに、数量を□などを用いて表し、その関係を式に表したり、□などに数を当てはめて調べたりして知識及び技能を身に付ける。

【A(6)ア(ア)】

○数量の関係に着目し、数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりする。

【A(6)イ(ア)】

第6学年 単元の目標

○比の意味や表し方を理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったりする。

【C(2)ア(ア)】

○日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。

【C(2)イ(ア)】

6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現等	学びに向かう力・人間性等
第3学年	円や球の定義や性質、それぞれの持つ構成要素の関係を理解している。 コンパスを用いて、決められた大きさの円をかいたり、線分を写し取ったり、模様をかいたりすることができる。	折ったり、重ねたりする操作をもとにして、円や球の性質や特徴を、帰納的に考えている。	身の回りにある円や球の性質や特徴を調べようとしている。また、円や球のもつ機能に気づき、進んで生活に活かそうとしている。
第4学年	四則混合の式や()を用いた式の意味が分かり、計算の順序を理解している。 数量の関係を式で簡潔に表したり、式を正しく計算することができる。また、□や△などの記号を用いて、計算法則を表すことができる。	具体的な場面から1つの式を作ったり、式から具体的な場面を考えたりしている。また、□や△などの記号を用いると、計算法則を簡潔、一般的に表せることに気付いている。	四則の混合した式や()を用いた式を用いようとしている。また、□や△などの記号を用いると、交換法則や結合法則、分配法則を簡潔に表せることに気付いている。
第6学年	比の意味、比が等しいということの意味を理解している。 比を用いて、2つの数量の関係を表したり、等しい比を作ったりすることができる。	比や等しい比の性質を活用して、問題を解決している。	比のよさに気づき、2つの数量の関係を比を用いて表したり、問題の解決に比を活用したりしようとしている。

7 第3学年 指導と評価の計画 (全 14時間 本時 9/14)

単元前	【自立活動】(1時間) パーティーの計画を立てる。 (A児)相手の気持ちを考えながら計画をすることができる。 (B児)情緒をコントロールしながらパーティーをするための計画を立てることができる。					
	小単元	学習内容	評価の観点			評価方法
1 円 ○	知	思	学	評価規準		
	【課題の設定(1時間)】 ●10~12名くらいで玉入れをするときの条件を話し合う。			◎	●人数が増えていくと、子供の立つ位置の点は、やがてまんまる(円)に近づいていくことを見出している。	発言
	【情報の収集(1時間)】 ●「円」の定義「中心」「半径」の意味を知る。	◎			●円の定義や用語の意味を理解している。	ノート 発言
	【情報の収集(1時間)】 ●校庭に大きな円をかく方法を考え、作図する。		◎		●長い棒と糸を使って円をかくことができる、	ノート 評価問題
●コンパスを用いての円の作図方法を理解して、いろいろな大きさの円をかく。 ●「直径」の意味を知る。	◎			●コンパスを使って円をかくことができる。	ノート 評価問題	

	●コンパスを使って、直径を等間隔に区切ったり、直線の長さを比べたりする。	◎		●コンパスを使って長さを測り取ることができる。	ノート 評価問題
	【整理・分析（1時間）】 ●円を折る活動を通して、直径の性質について調べる。		◎	●かいたり、折ったりする活動を通して、円についての性質を、帰納的に考えている。	ノート 発言
	【整理・分析（1時間）】 ●正方形の中にぴったり入る円（コースター）を図を使って、円の直径や半径を捉える。	◎		●正方形にぴったり入る円の直径や半径を求めることができる。	ノート 発言 評価問題
	【表現（1時間）】 ●正方形の中にぴったり入る円（コースター）を描く方法を考える。（本時）		◎	●正方形にぴったり入る円の中心を求めることができる。	ノート 発言 評価問題
	【情報の収集（1時間）】 ●円の中心の見つけ方を考える。 ●コンパスを使って、いろいろな大きさの円をかく。	◎		●直径の性質を基にして、円の中心の見つけ方を見いだしている。	ノート 発言
	【実行（1時間）】 ●コンパスを使って模様をかき、コースターを作る。		◎	●円や弧のもつ美しさに気づき、進んで模様作りを工夫しようとしている。	ノート
2 球 (1)	【情報の収集（1時間）】 ●球の定義と構成要素を知る。 ●球の切り口が一番大きくなるのはどんな時か考える。 ●球の直径の調べ方を考える。	◎		●球の定義、構成要素の性質や関係を理解している。	ノート 発言
(1) 練習	【まとめ（1時間）】 ●既習事項の理解を深める。	◎		●既習事項を使って問題を解く方法を理解している。	ノート
単 元 後	【自立活動】（1時間） パーティーをみんなで楽しむ。 （A児）相手の気持ちを考えながら行動することができる。 （B児）情緒をコントロールしながらパーティーをすることができる。				

第4学年 指導と評価の計画（全 13時間 本時 5/13）

単 元 前	【自立活動】（1時間） パーティーの計画を立てる。 （C児）集団から離れることなく活動することができる。 （D児）人の話を聞いてパーティーをする計画を立てることができる。				
小 単 元	学習内容	評価の観点			評価方法
		知	思	学	

1 式に表す (4)	【課題の設定(1時間)】 ●買い物場面での問題に取り組もうとしている。			◎	●日常生活における計算が一度にできる場面に目を向け、進んで考えようとしている。	発言
	【情報の収集(1時間)】 ●()を使って1つの式に表せることを知る。	◎			●()のある式の計算順序を理解している。	ノート 発言
	【整理・分析(1時間)】 ●500円で2つの品物を買ったときの藤野さんと宮井くんのおつりの求め方を考え、立式する。	◎			●具体的な場面を1つの式に表している。	ノート 発言 評価問題
	【整理・分析(1時間)】 ●買い物場面から()を用いた式に表し、式の意味を考える。(本時)		◎		●式から具体的な場面や数量の関係を考えている。	ノート 発言
	【表現(1時間)】 ●計算の順序と結び付けて、乗除部分の意味を考える。	◎			●四則混合の式では、乗除を先に計算することを理解している。	ノート 評価問題
	【実行(1時間)】 ●()と四則の混合式の計算順序を確かめる。	◎			●()と四則の混合式の計算順序が分かり、正しい順序で計算できる。	ノート 発言
2 り 計算の きま	【整理・分析(1時間)】 ●具体的な場面を通して、2通りの式を立てたり、相互の関係や計算のしやすさを考えたりする。			◎	●□や△などの記号を用いると、計算法則を簡潔、一般的に表せることを見いだしている。	ノート 発言 評価問題
3 て 計算の きまりを 使っ	【整理・分析(1時間)】 ●具体的な場面を式で表し、計算のきまりを使って説明する。			◎	●計算のきまりを使って、生活の中の場面や半具体物を式で表そうとしている。	ノート 発言
	【実行(1時間)】 ●分配法則や結合法則を用いて、被乗数を()で表して計算しやすい数にする。	◎			●分配法則や結合法則を使って、工夫して計算することができる。	ノート 発言
4 算 整数の	【実行(1時間)】 ●計算は、筆算した方が効率的にできることを確認する。	◎			●整数の四則計算が適切にできる。	ノート 発言
① 練習	【まとめ(1時間)】 ●既習事項の理解を深める。	◎			●既習事項を使って問題を解く方法を理解している。	ノート
単 元 後	<p>【自立活動】(1時間)</p> <p>パーティーをみんなで楽しむ。</p> <p><u>(C児) 集団から離れることなくみんなと協力してすることができる。</u></p> <p><u>(D児) 友達や先生の話聞いてパーティーをすることができる。</u></p>					

単元前	<p>【自立活動】（1時間）</p> <p>パーティーの計画を立てる。</p> <p>（E児）自分の気持ちを下学年に伝え、相手の考えを受け入れながら計画することができる。</p>
-----	---

小単元	学習内容	評価の観点				
		知	思	学	評価方法	
1 比 (1)	<p>【整理・分析・実行（1時間）】</p> <p>●身近なものの関係を割合を使って表す。</p>			◎	●2つの数量の関係を割合で表そうとしている。	発言
	<p>【課題の設定（1時間）】</p> <p>●フレンチソースの酢の量とサラダ油の量の割合について考え、比を用いた割合の表し方や比の値を知る。</p>	◎			●比の意味と、比を用いた2両の割合の表し方を理解している。	ノート 発言
2 等しい比 (4)	<p>【表現（1時間）】</p> <p>●パーティーで使うジュースを用いて比が等しいということの意味と表し方をまとめる。</p>	◎			●2つの比が等しいということの意味を理解している。	ノート 発言 評価問題
	<p>【情報の収集（1時間）】</p> <p>●等しい比の間にきまりがないかどうか調べる。</p>		◎		●等しい2つの比を比べ、その間に成り立つきまりを見いだしている。	ノート 発言
	<p>【表現（1時間）】</p> <p>●同じ濃さのパーティーで使う乳酸飲料水の作り方を考える。（$A:B=A \times n : B \times n$の性質を活用）（本時）</p>			◎	●等しい比の性質を活用して、問題を解決している。	ノート 発言
	<p>【整理・分析（1時間）】</p> <p>●等しい比の性質を使って、できるだけ小さい整数の比を見付ける。</p>	◎			●等しい比の性質を利用して、比を簡単にすることができる。	ノート 発言 評価問題
練習 (1)	<p>【まとめ（1時間）】</p> <p>●既習事項の理解を深める。</p>	◎			●既習事項を使って問題を解く方法を理解している。	ノート
単元後	<p>【自立活動】（1時間）</p> <p>パーティーをみんなで楽しむ。</p> <p>（E児）相手の考えを受け入れながらパーティーをみんなで行うことができる。</p>					

本時の学習

(1) 本時の目標

第3学年

○円の性質と正方形の一辺の長さの関係を見いだすことができる。

第4学年

○具体的な場面を（ ）を使って1つの式に表し、説明することができる。

第6学年

○6人分のジュースの濃さを等しい比の性質を使って求めることができる。

(2) 本時でつきたい力（資質・能力）

第3学年

○やり抜く力

円の直径と正方形の一辺の長さを関係付けながら、本時のまとめを使い、正方形の中にぴったり入る円を作図することができる。

第4学年

○やり抜く力

具体的な場面を（ ）を用いて1つの式に表し、話型や用語カード、ペア活動を通して説明することができる。

第6学年

○やり抜く力

比を用いた計算や、図を操作する活動を通して、人数分かけると同じ濃さになることをたしかめることができる。

個々の目標

第3学年 A児	・円の中心を見付けることができる。 ・集中して時間いっぱい学習に取り組むことができる。
第3学年 B児	・円の中心を見付け正方形にぴったり入る円を描く方法を見いだすことができる。 ・相手意識をもってどのように考えたか説明をすることができる。
第4学年 C児	・（ ）を使って一つの式に表し、話型カードを使って説明することができる。 ・困ったときは諦めるのではなく、最後まで諦めずに取り組むことができる。
第4学年 D児	・（ ）や言葉で計算のしかたを説明することができる。 ・最後まで落ち着いて学習に取り組むことができる。
第6学年 E児	・それぞれの値を計算して、1人分も6人分のジュースの濃さが同じであることに気が付くことができる。 ・困ったときは、自分の言葉で助けを求めることができる。

(3) 準備物

第3学年

既習掲示 ヒントカード（方眼入り、正方形の対角線がひいてあるもの） 円 紙 コンパス 評価問題

第4学年





算数用語カード 掲示物 評価問題 既習掲示

第6学年

既習掲示 カップ 水 ジュース 評価問題 掲示物

(5) 板書計画

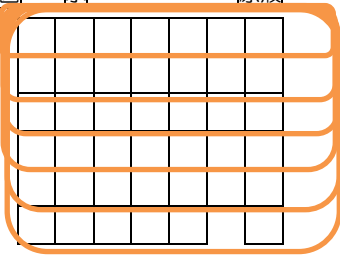
<3年生>

<p>も</p>	<p>10月12日(金)</p> <p>パーティーで使うコースターを作ります。一辺の長さが8cmの正方形の中に、ぴったり入る円をかきましよう。中心はどこでしょうか。</p>  <p>×ぴったり入っていない円</p>  <p>正方形の一辺の長さの半分=半径=4cm 見通し</p> <p>方法 ・半分に折る。マス目を使う。</p> <p>使う物 ・定ぎ・えん筆</p>	<p>1数える法</p>  <p>①正方形の一辺の長さ=円の直径の長さ。 ②正方形の4つの辺に印をする。 ③印から向かい合った辺の印に向かって直線を結ぶ。</p> <p>折る折る法</p> <p>4cm</p>  <p>4cm</p> <p>①正方形をたてに半分に折って開く。 ②横に半分に折る。 ③2本の直線の交じた点が中心になる。</p>	<p>ま</p> <p>正方形にぴったり入る円の中心を見つけるには、数える法、折る折る法がある。</p> <p>練</p> <p>一つの辺の長さが10cmの正方形にぴったり入る円をかかためには、中心はどこにかけばよいでしょうか。中心を見つけましよう。</p> <p>ふ</p>
<p>め</p>	<p>正方形にぴったり入る円の中心を見つけ方を考えよう。</p>		

<4年生>

<p>問</p>	<p>10月12日(金)</p> <p>500円持ってパーティーの買い出しに行きます。藤野くんは170円のせんべい、宮井くんは100円のサブレを買いました。残りは何円になるでしょうか。</p> <p>()を使って一つの式に表し、説明しよう。</p> <p>$500 - (170 + 100) = 230$</p> <p>お助けカード</p> <p>持っているお金 せんべい代 サブレ代 おつり</p>	<p>500 - (170 + 100) = 230</p> <p>セリフ</p> <p>「式は、$500 - (170 + 100)$になります。まず、()の中を先に計算して、代金の合計を求めます。□円 + □円 = □円です。次に500円から()を引きます。$500 - 270 = 230$です。」</p> <p>$500 - (170 + 100) = 230$</p> <p>持っているお金 (せんべい代+サブレ代) 残り</p> <p>↓</p> <p>代金の合計</p>	<p>ま</p> <p>持っているお金 - (買った物① + 買った物②) = おつり</p> <p>で、説明できる。</p> <p>練</p> <p>500円持ってパーティーの買い出しに行きます。内海君は140円のクッキー、小田君は240円のパイを買いました。残りは何円になるでしょうか。</p> <p>ふ</p>
----------	---	--	--

<6年生>

<p>問</p>	<p>10月12日(金)</p> <p>水とカルピスの原液を使って、ジュースを6人分作ります。水と原液を、それぞれ何カップ用意したらよいでしょうか。</p>	<p>①比</p> <p>$\cdot 5 : 1 = 30 : 6$</p> <p>水 原液 水 原液</p> <p>× 人分</p>	<p>ま</p> <p>1人分の水や原液に、それぞれ人数分かけると同じ濃さになる。</p>
	<p><おすすめ方></p> <p>水…小さいカップ5カップ分</p> <p>ジュースの原液…小さいカップ1カップ分</p>	<p>②図</p> <p>水 原液</p> 	<p>練</p> <p>コーヒーと牛乳を混ぜてコーヒー牛乳を作ります。1人分はコーヒーと牛乳の比は3:2です。6人分では、それぞれ何カップですか。</p>
<p>め</p>	<p>比を使って6人分の水と原液の量を求めよう。</p>	<p>ふ</p>	